

ボランティアセンターだより

第 73 号 令和 3 年(2021 年)3 月 31 日
 発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
 ボランティアセンターだより編集委員会
 〒560-0023 豊中市岡上の町 2-1-15
 TEL (6848) 1000 FAX (6848) 1005
 URL: <http://www.toyonaka-shakyo-vc.org/>
 E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

～コロナ禍で再発見～ 作品紹介

新型コロナウイルス感染症のため、みなさま、おうちで過ごす時間が増えているかと思えます。この度、「ボランティア募集 2 月号」でコロナ禍で再発見したことなどを、作文・俳句・川柳・イラストにしてみなさんに伝えてみませんか？と作品募集を行いました。

今回は届きました作品の中からいくつかご紹介をさせていただきます。



～作 文～



毎日の生活に流されていると、なかなか立ち止まって自分を見直すことができなかつたが、昨年はよい機会になった。欲張って趣味を広げすぎていたんだと反省している。趣味をやめると妻との会話や家呑みも増えた。それ以外にも、元の会社や大学の同期、ボランティアグループの仲間とのオンライン飲み会を始めたりして、交友関係も深くなってきた。

生活に時間の余裕ができることと様々なことに気づき、また実践できるようになった。コロナ・事故・災害・病気など、いつ命を絶たれるかわからない世の中で、死んでから後悔しないためには、毎日をこれ以上ないほど楽しく過ごすしかないと思っている。そういう意味では、私の人生にとって大事な 1 年になったのではないかと考えている。(N・T さん、60 代男性) ※一部抜粋し掲載。

～俳 句・川 柳～

・
 コロナ禍の
 おかげでお尻
 おもくなる
 がくふよみ
 かしをかみしめ
 小声うた

(作：さくらさく！さん)

・
 コロナ禍で
 Zoom で対面
 朗読し

(作：I・S さん)

※視覚障害者対象の対面朗読、

図書館のZoom 対応に感謝です。

※作品提供いただきありがとうございました！引き続き、作文・俳句・川柳・イラストを募集しています。
 テーマ：コロナ禍で始めたこと、楽しみにしていること、続けられている活動など

様 式：自由（作品は A4 サイズ以下）

提出方法：郵送、FAX、メール（作品には名前、連絡先記入）

問い合わせ：豊中市社会福祉協議会 ボランティアセンター

住所：豊中市岡上の町 2-1-15（豊中市すこやかプラザ 2 階）

TEL：06-6848-1000 FAX：06-6848-1005

メール：tcpvc@gold.ocn.ne.jp



第28回 豊中ボランティアフェスティバル



～オンラインでつながろう～



毎年、ボランティアフェスティバルでは、日頃のボランティアの活動状況を展示やステージで披露し、来場者の方々との交流を楽しむ機会として開催しておりました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、会場での開催を見送り、市社協公式 YouTube チャンネルを活用して、オンラインでグループの活動状況をお届けするかたちで実施しました。(令和3年2月22日(月)～3月31日(水) 期間限定配信)

慣れない動画撮影に緊張する様子もありながら、楽しく撮影できました。昨年のボランティアフェスティバルの様子や、普段はなかなか見られないグループ活動の様子なども見ていただけて、いろいろなグループを知っていただくきっかけになったようです。

コロナ禍でなかなか活動できない時期もありますが、感染予防に気をつけながら、みなさん楽しく活動しています。関心のあるグループがありましたら、ぜひボランティアセンターにお問合せください!

★活動紹介参加グループ★(順不同) ガールスカウト豊中地区協議会、聴くの会、庄内手話サークル「虹」、ステッキ、いきいき歌体操「さわやか」、豊中アッシー、豊中地区更生保護女性会、みちしるべ、ぐるぐるアート豊中世話人会、SA とよなか、池田分かち合いの会・ひかり、TERVE 北大阪



阪神淡路大震災から26年

「しあわせ運べるように」

～第27回豊中ボランティアフェスティバルより～



今年の1月で阪神・淡路大震災から26年を迎えました。市社協公式 YouTube チャンネルでは、昨年度の第27回豊中ボランティアフェスティバルでボランティアが合唱した「しあわせ運べるように」に合わせて、当時の様子を振り返る映像をご覧ください。

震災の復興と未来への明るい希望が届くように願いを込めて歌った「しあわせ運べるように」。ぜひご覧ください。



市社協公式 YouTube チャンネル



QRコードからご覧いただけます。または、「ユーチューブ」「豊中市社会福祉協議会」で検索してください!

私にとってのボランティア～ボランティア活動手記～

新潟県の田舎で生まれ育った私は、文字通りの「井の中の蛙」でした。そんな私が結婚と同時に転勤で名前しか知らない所での生活が始まりました。現在の様に情報があふれているわけではなく、夫以外は知らないことばかりの毎日でした。それは私だけではなく多くの方が同じ思いで暮らしていたと思います。ようやく慣れたかなと思えば転勤で気が付けば軽いうつ状態に。そんな私がこうして生活できているのは多くの周りにいらした方々に助けられていると気づいた時には涙が止まりませんでした。私は私なりに頑張ってきたけど、それ以上に多くの方々に支えられての今日に感謝し、少しずつでも今度は支えることができたらいいなと思うようになりました。



福岡で迎えた平成、保健所でのヘルパー講座を受講、地元のボランティアグループ「あやすぎ」に参加して、色々教えていただき歩き出したその矢先転勤。

平成 5 年 1 月に豊中市民になると同時に、社協でボランティア登録をし、28 年。生まれ育った新潟の田舎よりも長く豊中で暮らし、「豊中の人」になれたかなと思っています。

(ステッキ 斎藤 杏子)



大阪府市町村ボランティア連絡会

テーマ別研修会

令和 2 年 (2020 年) 11 月に大阪府社会福祉協議会主催で各市町村ボランティア連絡会を対象に、「オンライン会議をマスターしよう」をテーマに、オンライン会議 (Zoom) の基礎的な使い方や、活用方法を体験しながら学ぶ研修会に参加しました。

講師は NPO 法人淡路島アートセンター理事長の青木将幸さんで地元の淡路島からオンラインでの指導でした。



市社協ボランティアセンター「ぷらっと」にてパソコンを設置して研修会に参加。講師の的確で且つ丁寧な指導により、基礎的な Zoom の使い方を取得することができました。今後、ボランティア団体連絡会や各ボランティアグループで Zoom によるオンライン会議を活用し、ボランティア活動を活性化させたいと思います。

(豊中市社協ボランティア団体連絡会 会長)



Live 配信

災害支援研修会



市社協主催の災害支援研修会を1月15日(金) Zoomにて実施しました。校区福祉委員会、民生・児童委員会、ボランティアグループ、高齢・障害の事業所の方々など、約300名が参加されました。第1部では丹波篠山市役所長寿福祉課 副課長 松本ゆかりさんより「高齢者等の避難誘導と『災害時ケアプラン』について」の講演がありました。丹波篠山市では“誰ひとり取り残さない防災”を掲げ、災害時要援護者支援の仕組みをつくり、避難行動要支援者の一人ひとりについて、本人やその家族を交えて災害発生時の情報伝達から避難所等への誘導まで、一連の活動を想定した具体的な個別支援計画を地域と一緒に作成を実施してこられた。

講演では、計画を作成する際は要支援者の身体・生活・家族状況等をよく知っているケアマネジャーや相談支援専門員の協力が大切であることや、それぞれに必要な避難の方法について関わる人たちの話し合いが繰り返し重ねられていくなかで、災害への関心が高まったり、仲間意識、連携強化が深まっていった様子を学びました。

また、第2部では豊中市役所危機管理課より、「コロナ禍での避難所運営について」の講演がありました。コロナ禍での避難者、避難所スタッフの感染症対策や性的マイノリティの方に対する配慮の話等を学びました。

アンケートより



- ・地域住民や福祉専門職とのつながりが大事だと認識した。この双方をつなぐ人材や関係機関の大切さが良く理解できた。
- ・篠山市のケアマネジャーさんの熱意を感じた。ケアマネ、包括、地域がつながるために具体案もあったり、ケアマネのことも考えて報酬につながるように考えておられるところが素晴らしい。
- ・コロナ禍で密にならないような運営について具体的な説明でよく理解できた。問題点が一つずつ整理されていて良かった。

東日本大震災から10年

豊中・大槌・陸前高田 オンライン交流会

3月11日で東日本大震災から10年となりました。令和2年度は毎年夏に実施していたボランティアバスがコロナ禍で中止となり、豊中市内の高校生が被災地に行き、被災地のみなさんと交流し学ぶ機会がありませんでした。そのため、3月3日に豊中市内高校(桜塚高校、刀根山高校)と岩手県大槌高校とのオンライン交流会を実施しました。大槌高校の生徒から、「災害があった当時はまだ小学校1年生で、当時の事はよく覚えていないが、何年かしてからたくさんの方が支えてくれていたことに気づいた。」とお話がありました。

また、後半にはマルゴト陸前高田の斎藤さんから、陸前高田市の今を屋外からオンライン復興最前線として伝えてくださいました。災害から10年の陸前高田市の復興への動きと、街なみの移り変わりがよくわかる内容でした。



コロナが収まり、また直接会える日を願いながら、画面越しでもつながりを感じ合うことができました。



福祉体験学習

～コロナ禍でも
わたしたちにできること～

豊中市立第十四中学校では、毎年1年生が福祉体験学習に取り組んでいます。昨年度もボランティアや校区福祉委員会、施設などが協力して、手話、点字、インスタントシニア（高齢者疑似体験）、車いすダンス、録音図書などのボランティア体験、公園清掃や募金活動、地域の見守り活動に同行したり、近隣の施設の利用者と交流したりしました。

今年度はこれまでのような体験や交流ができない中、社会福祉協議会からボランティアの講演を行い、コロナ禍でも工夫して行っている地域やボランティアのとりくみを紹介させていただきました。それを受けて、生徒のみなさんがコロナ禍でも自分たちにできることはないかと考え、地域の高齢者に元気になってもらえるようお手紙を書いたり、施設の利用者に見てもらえるようDVDや寄せ書きを作成したりして、お届けすることになりました。お手紙の配布には、地域の高齢者と普段からサロンや見守りなどで関わりのある北緑丘校区、野畑校区の福祉委員会にご協力いただきました。中学生の柔軟な発想で生まれた、離れていてもできるボランティア。これをきっかけに今後も交流が続いていきそうです。



講演でボランティアのとりくみを聞いたあと、教室で、どんなボランティアができるか話し合いました。



生徒の代表が豊中グリーンヒルにDVDと寄せ書きを届けました。施設長は「コロナ禍でもできない状況の中、「利用者はとても喜ばれると思う」と受け取っていただきました。



年賀状ボランティア

～ひとり暮らし高齢者に
年賀状を送ろう～

昨年11月から12月にかけて、豊中市内のひとり暮らし老人の会の会員の方々に送る年賀状を作成しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、人数制限をしたり急遽中止せざるを得ない日もありましたが、自宅で作品を仕上げ送っていただいた方、窓口に作品を届けていただいた方など皆様にご協力いただき、1,042名の方々に温かいメッセージを添えた年賀状を送ることができました。受け取られた方からは感謝のお言葉を多数いただいております。ご協力をいただいたみなさま、本当にありがとうございました！



スマホ講座

昨年の11月16日に、すこやかプラザ2階会議室にて豊中市シルバー人材センターの「スマホ&パソコンらぼ」のメンバーに来ていただき、「スマホ講座」を開催しました。スマホの基本的な使い方から、スマホ決済の使い方など具体的な方法まで、熱心にレクチャーをしていただきました。参加者のみなさまも操作方法を覚えようと必死になっておられ、講座後には「すごくためになった。」「どんどんアプリを使うことに挑戦していきたい」「また、何度か講座を開いてほしい。」などのご意見をいただきました。今後、コロナ禍でスマホやタブレットの使用が増えていくなかでとても有意義な講座になりました。



「スマホ・パソコンらぼ」メンバーのみなさま



スマホの操作方法を勉強中！



市社協事業のご紹介

昨年はコロナ禍で、登録ボランティアの皆さんは活動の機会が少なかったかと思います。今回は市社協事業のご紹介をさせていただきます。お手伝いいただける方を募集しています。ご興味のある方は各連絡先までお問合せください。

とよなかファミリー・サポート・センター 援助会員募集

ファミリー・サポート・センターは子育ての援助が必要な人と子育ての援助ができる人とを結びつける会員制の育児支援ネットワークです。子どもの送迎や預かりなどの活動にぜひご協力ください。まずは会員登録が必要です。下記までお問合せください。

【問い合わせ】 TEL：06-6841-9383 FAX：06-6841-2388

ささえ愛ポイント事業

活動登録者が、対象となる社会貢献活動を行うことで、ボランティアの楽しさを知ってもらい、自身の健康づくり、また地域の福祉施設・福祉活動への理解を深めてもらい、介護予防の推進を図る事業です。活動実績に対してポイントが付与され、ポイント数に基づき、年1回活動支援金として還元されます。

【活動登録説明会】

日 時：第1月曜日、第4火曜日 どちらも10時～12時

場 所：豊中市すこやかプラザ2階会議室

対 象：豊中市在住の満65歳以上の介護保険第1号被保険者

申込み：事前予約制（電話：06-6848-1000）

みなさん、介護予防のため、ボランティア活動しませんか。まずは説明会にご参加ください！



< ボランティア活動総合補償制度のご案内 >

安心してボランティア活動に取り組む為にボランティア保障制度があります。

①ボランティア活動保険（ボランティア活動中の事故等に備え、ボランティアの方が加入できる年間の保険）⇒ボランティア活動を行う団体が対象

②ボランティア・市民活動行事保険（行事の主催者がスタッフ・参加者のケガや賠償責任を負った場合に備え、行事ごとにかかる保険）⇒行事の主催者が対象

※府社協のHPよりパンフレットをご覧ください。

<http://www.osakafusyakyo.or.jp/vcenter/hoken.html>

詳しくは、ボランティアセンターまでお問合せください。

< 義援金のご報告・募集 >

●令和2年7月豪雨災害活動支援金：179,668円

（令和2年7月3日～令和2年1月31日受付分）

※送金先：中央共同募金会「災害ボラサポ・令和2年7月豪雨」

●令和3年2月福島県沖地震災害義援金の受付開始しました。募金箱を設置しておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

設置場所：ボランティアセンター「ぷらっと」、福祉の店「なかま」、びーの×マルシェ、各地域福祉活動支援センター

※お預かりした募金は被災された方々への義援金として、日本赤十字豊中市地区を通して、日本赤十字福島県支部へ送金いたします。

編集後記

私たちは介護用品を手作りしているグループですが、仲間同士が密になりやすく、コロナ禍での活動が難しいため、昨年から今年の3月まで活動を休止していました。4月から感染予防対策をしながら活動を再開する予定です。このような時期で外に出る機会も少なくなり、家で過ごす時間が増えて気持ちも落ち込みやすくなりますが、ボランティアのみなさまも健康に気を付けて、一緒にがんばっていきましょう。

（小さな手 F・I）